

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 2 月 調査結果 - -

(平成 1 6 年 3 月 2 日)

調査期間：平成 1 6 年 2 月 1 8 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 0 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 2 9 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年2月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月連続で改善するも、依然、根強い景況の不透明感

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.8）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して33.3となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、建設を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が縮小した。業況は好調との声はあるものの、依然D I値は低水準で、中小企業の足元では景況の停滞感が根強く残っている。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷のほか、B S E（狂牛病）や鳥インフルエンザの発生、素材価格の高騰などによる仕入コスト上昇など、依然、不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「受注高は2～3年前と比べると少ない水準だが、前年よりは増加している」（建築工事）との声はあるものの、「公共工事、民間工事とも依然低迷しており、厳しい状況が続いている」（建築工事）、「受注量の激減に伴い事業の縮小が今後も続く見込みで、従業員のリストラに歯止めがかからない」（一般工事）といった、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「工作機械および建設機械関係等は順調に推移しており、今後も落ち込むことはないと思われる」（金属加工機械）といった声の一方、「中国向け短納期の仕事が増加したが、単価が安いため資金繰りは厳しい」（産業用電気機械）との声や、「受注量は若干増えているが、原材料価格が徐々に上昇しており、経営は厳しい」（鉄素形材）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「例年2月は不需要期で生産、出荷とも停滞する時期だが、今年は順調」（建築材料）といった声の一方、「まだまだ業界全体が悪い」（衣服、日用品）との声や、「原材料価格の上昇が続いており、採算面の圧力になっている」（金物類）、「鳥インフルエンザ、B S E、コイヘルペスといった肉、魚類の問題により、消費者の食の安全性への目が厳しくなっており、青果業界にまで影響が現れはじめている」（食料、飲料）と、仕入コストの上昇や食品安全性問題についてのコメントが寄せられている。

【小売業】では、「卒業式・入学式に向けたニーズが顕著になってきた」（百貨店）といった声はあるものの、「セールスの展開により売上は前年を上回る見込みだが、来客数の減少は続いており、目的買いの客が増えている」（百貨店）、「業況に変わりなく、個人消費に回復の兆しは見られない」（商店街）、「消費の低迷に加え、B S E、鳥インフルエンザの風評により売上減少が拡大」（商店街）といったコメントが寄せられている。

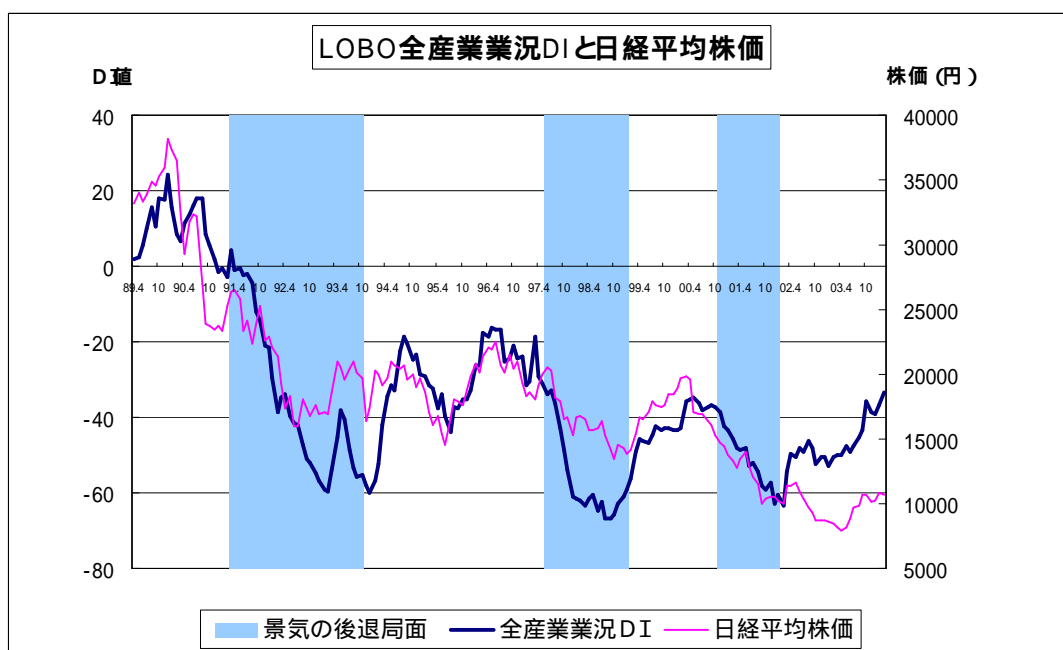
【サービス業】では、「先行き不安が少し改善され、全体的に動きが良くなっている」（食堂、レストラン）との声の一方、「宿泊はやや好転しているものの、宴会需要は依然厳しい」（旅館）、「貨物輸送量の減少、運賃値下げのほか、安全、環境対策への負担等により、極めて厳しい状況が続いている」（運輸）といった声や、「B S E、鳥インフルエンザの影響で牛肉、鶏肉が値上がりし、採算悪化」（飲食店）とのコメントが寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 1 . 2 ポイント縮小して 3 1 . 5 となり、3 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売、小売を除く 3 業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の採算 D I は 0 . 3 ポイント拡大して 3 3 . 6 となり、2 カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月 (3 月 ~ 5 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 2 6 . 2 と、昨年同時期の先行き見通し (4 2 . 4) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが、依然として寄せられているほか、B S E (狂牛病) や鳥インフルエンザの発生や、素材価格の高騰などによる仕入コストの上昇に関するコメントが見られた。



【業況についての判断】

2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.8）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して33.3となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

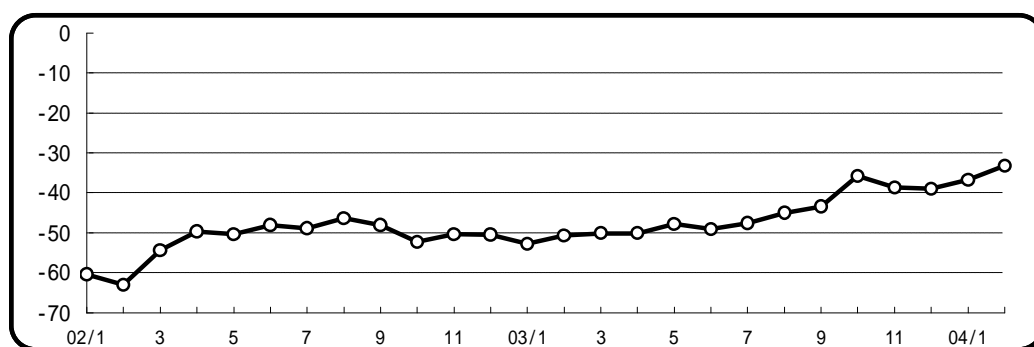
向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が26.2と、昨年同時期の先行き見通し（42.4）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	43.4	35.8	38.7	39.0	36.8	33.3	26.2 (42.4)
建設	54.6	53.6	54.4	55.6	55.3	55.5	46.9 (62.6)
製造	31.7	24.6	23.0	18.9	21.5	18.1	14.7 (40.7)
卸売	41.1	36.5	40.7	53.7	36.1	30.4	16.7 (35.9)
小売	48.3	34.1	47.8	45.6	41.6	36.0	28.0 (37.0)
サービス	43.6	38.0	33.3	35.9	35.6	32.9	26.4 (40.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年2月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

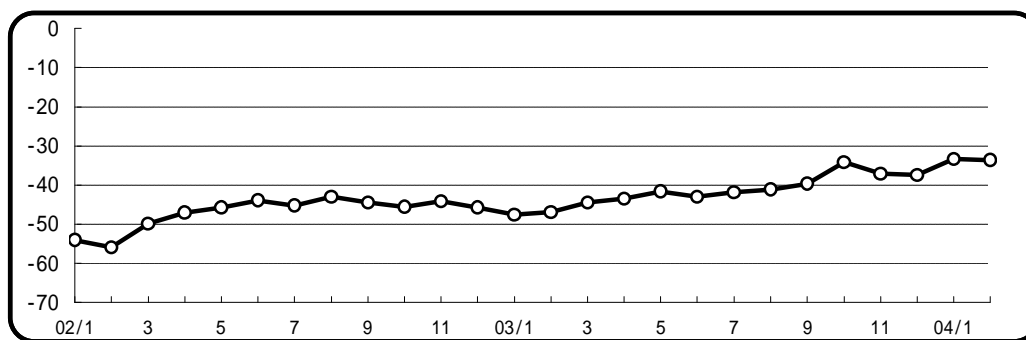
採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売、小売を除く3業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の採算D I は0.3ポイント拡大して33.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が23.8と、昨年同時期の先行き見通し(37.0)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	39.6	34.2	37.1	37.4	33.3	33.6	23.8 (37.0)
建設	56.4	54.4	55.8	55.3	49.3	52.9	43.4 (57.9)
製造	33.3	28.5	25.3	27.3	23.2	24.3	15.9 (41.6)
卸売	36.2	30.5	35.2	43.9	32.5	28.6	17.9 (24.7)
小売	37.5	27.7	43.1	36.7	32.1	30.4	21.3 (29.2)
サービス	38.6	36.5	31.0	34.5	35.1	36.7	24.4 (32.5)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	29.0	28.3	27.4	28.3	25.9	26.7	22.3 (33.0)
建設	44.3	44.6	41.7	44.2	41.0	43.0	39.1 (49.6)
製造	24.0	24.3	21.7	23.5	20.1	22.5	17.4 (33.7)
卸売	26.4	21.3	22.9	28.4	22.0	23.9	18.4 (29.3)
小売	26.8	26.1	26.6	25.4	26.0	21.4	16.9 (27.8)
サービス	27.2	26.5	26.0	25.3	22.8	26.3	24.7 (29.2)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で悪化超感が強まり、全産業合計でも2カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	4.7	5.4	3.2	4.4	7.6	9.7	10.1 (4.9)
建設	0.4	1.5	1.8	3.3	6.7	6.2	9.9 (3.0)
製造	10.3	14.1	14.3	16.2	20.0	23.9	20.2 (15.6)
卸売	0.6	0.6	8.6	9.3	3.6	6.6	12.6 (3.0)
小売	2.9	0.4	2.1	2.0	2.8	0.4	0.6 (4.9)
サービス	5.3	7.8	3.2	5.3	9.1	10.5	10.0 (7.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも3カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	10.9	9.3	10.1	9.5	10.8	10.0	10.2 (16.7)
建設	27.3	22.7	23.4	21.5	26.6	27.5	25.8 (37.6)
製造	14.1	10.9	11.2	8.7	11.5	9.1	11.9 (19.1)
卸売	9.8	9.6	12.3	11.0	15.1	9.6	7.6 (12.8)
小売	3.1	4.6	5.8	5.8	5.5	4.1	4.2 (8.3)
サービス	5.8	3.8	3.7	6.3	4.0	6.6	5.1 (11.7)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】建設、サービスを除く 3 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 2 カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年2月の景気キーワード】

回復への期待感

引き続き、製造業を中心に業況は好調との声が寄せられている。「改修、増築等の工事が多くなっており、店舗関係の新築も少し増えてきた」(下館・一般工事)「業種間にバラつきはあるものの受注は好調で、先行きについても不安感が薄らいでいる」(北上・電気機器製造)「引き続き、鉄鋼関連の好況に支えられ、鉄鋼向け石灰を中心に出荷量は高水準にある」(秩父・窯業、土石)「自動車関連は順調に伸びている」(豊橋・自動車、附属品製造)といったコメントが寄せられているほか、「輸入商品の品質向上により商品単価も上昇し、収益も向上するという好循環が見られる」(岡山・衣服、日用品卸売)「売上高は入学用靴、携帯電話等で好転の兆しが見え、生鮮品も多少好転」(横須賀・商店街)「IT関連からの派遣要請が増加してきており、その他サービス業、観光業からの問い合わせも見られるようになってきた」(長野・人材派遣)といった声が寄せられている。

先行き不透明感

依然として、景気の先行きに対する不透明感を訴える声も多く、建設、製造からは、「来年度予算でも県、国からの発注は減少の見込み」(姫路・建築工事)「中小企業でもリストラ効果がやっと数字に表れ始めたようだが、依然単価引き下げに苦しむ事業者が多く、業界全体としては楽観できない状況が続いている」(草加・化学工業)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「民間需要の低迷に加え、地方自治体でも財政難から事務用品、事務機器等の予算が毎年削減されており、納入業者の売上は減少の一途」(帯広・各種商品卸売)「バレンタイン商戦は好調に推移したが、全体としてはやや弱い動きで、消費に停滞感が漂っている」(京都・百貨店)「1月は正月のみ良かったものの、その後は鳴かず飛ばずで、2月もそれを引きずっている」(銚子・一般飲食店)との声が寄せられている。

仕入コスト上昇

素材関連を中心に仕入コストの上昇を訴える声が寄せられており、「鉄鋼の仕入れ価格が上昇しており、採算に影響が出ている」(赤穂・一般工事)「中国向け需要の増大により鉄の原材料価格が上昇し、特に鉄スクラップは手に入らなくなった」(唐津・鉄素形材製造)「原材料の仕入単価上昇分の価格上乗せを得意先に要望しているが認められず、採算がさらに悪化」(立川・自動車、附属品製造)「原材料の値上げによる原材料不足、採算悪化等、見通しは悪い」(岐阜・プラスチック製品製造)といった声が寄せられている。また、「牛、豚、鶏肉の卸値が20%以上上昇し、今後の下落の見込みもなし」(草津・百貨店)と、BSEや鳥インフルエンザの影響を訴える声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
15年12月	先行き不透明感	回復への期待感	
16年 1月	回復への期待感	先行き不透明感	食品安全性問題
2月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは4カ月ぶりに縮小した。「受注高は2～3年前と比べると少ない水準だが、前年よりは増加している」(建築工事)との声はあるものの、「公共工事、民間工事とも依然低迷しており、厳しい状況が続いている」(建築工事)「受注量の激減に伴い事業の縮小が今後も続く見込みで、従業員のリストラに歯止めがかからない」(一般工事)「宅地造成が少なく住宅着工件数が減少しているうえ、競争激化により採算も悪化している」(建築工事)といった、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「工作機械および建設機械関係等は順調に推移しており、今後も落ち込むことはないと思われる」(金属加工機械)「半導体関連に強い引き合いがきている」(金物類)といった声の一方、「中国向け短納期の仕事が増加したが、単価が安いため資金繰りは厳しい」(産業用電気機械)「少しずつ明るい話が出てきているが、受注単価が低く採算は悪化し、資金繰りが厳しい」(建設建築用金属)との声や、「受注量は若干増えているが、原材料の価格が徐々に上昇しており、経営は厳しい」(鉄素形材)と、仕入コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。
卸 売	業況、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「例年2月は不需要期で生産、出荷とも停滞する時期だが、今年は順調」(建築材料)との声の一方、「消費意欲の高まりから婦人服の売上は増加したが、紳士服、呉服が引き続き悪いため全体的には微増」(衣服、日用品)「まだまだ業界全体が悪い」(衣服、日用品)といった声や、「原材料価格の上昇が続いており、採算面の圧力になっている」(金物類)「鳥インフルエンザ、BSE、コイヘルペスといった肉、魚類の問題により、消費者の食の安全性への目が厳しくなっており、青果業界にまで影響が現れはじめている」(食料、飲料)と、仕入コスト上昇や食品安全性問題についてのコメントが寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「卒業式・入学式に向けたニーズが顕著になってきた」(百貨店)「春にかけて物が動く時なので、売り上げ増の期待大」(商店街)といった声はあるものの、「セールスの展開により売上は前年を上回る見込みだが、来客数の減少は続いており、目的買い客が増えている」(百貨店)「業況に変わりなく、個人消費に回復の兆しは見られない」(商店街)との声や、「消費の低迷に加え、BSE、鳥インフルエンザの風評により売上減少が拡大」(商店街)といったコメントが寄せられている。
サービ	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続で拡大した。「先行き不安が少し改善され、全体的に動きが良くなっている」(食堂、レストラン)「工作機械のリースが増えている」(各種物品賃貸)といった声の一方、「宿泊はやや好転しているものの、宴会需要は依然厳しい」(旅館)「入場者は増えているが、売上は若干の増加にとどまる」(スポーツ施設)との声や、「貨物輸送量の減少、運賃値下げのほか、安全、環境対策への負担等により、極めて厳しい状況が続いている」(運輸)と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。また、「BSE、鳥インフルエンザの影響で牛肉、鶏肉が値上がりし、採算悪化」(飲食店)とのコメントも寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、中国、四国を除く6ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも2カ月連続で縮小した。

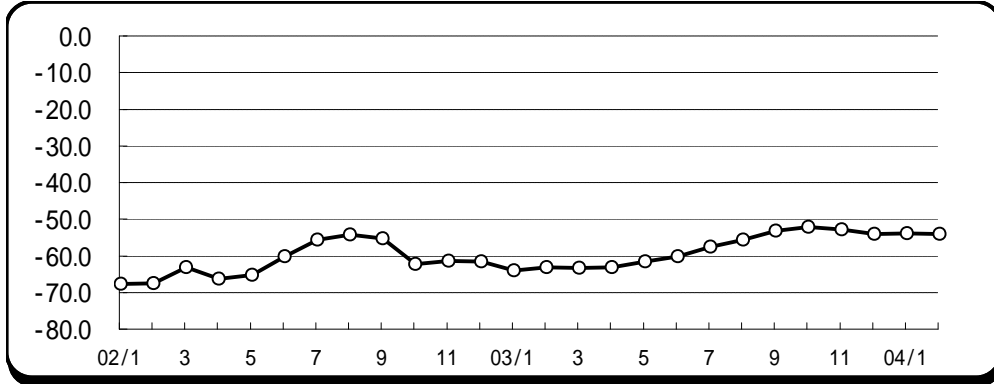
ブロック別の向こう3カ月(3月~5月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

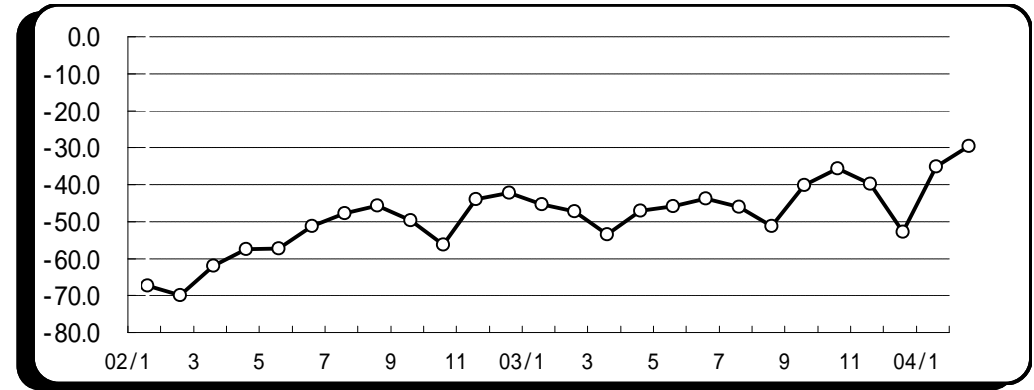
	15年 9月	10月	11月	12月	16年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全 国	43.4	35.8	38.7	39.0	36.8	33.3	26.2 (42.4)
北海道	37.0	34.5	37.7	33.6	29.7	30.1	21.2 (43.5)
東 北	42.4	41.5	41.8	48.9	43.7	36.7	32.7 (51.5)
北陸信越	46.0	33.1	35.7	37.0	31.8	28.3	16.7 (38.9)
関 東	44.1	28.4	35.7	33.9	31.1	28.5	22.0 (41.3)
東 海	46.5	31.3	36.1	32.1	35.6	27.7	27.5 (39.7)
近 畿	43.7	42.9	45.0	43.6	43.9	39.2	33.8 (43.2)
中 国	41.3	36.2	36.6	44.4	37.4	38.2	27.8 (44.0)
四 国	39.6	40.4	39.6	44.2	44.6	48.6	31.2 (40.9)
九 州	45.9	41.6	40.1	38.9	39.6	31.6	25.9 (40.7)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

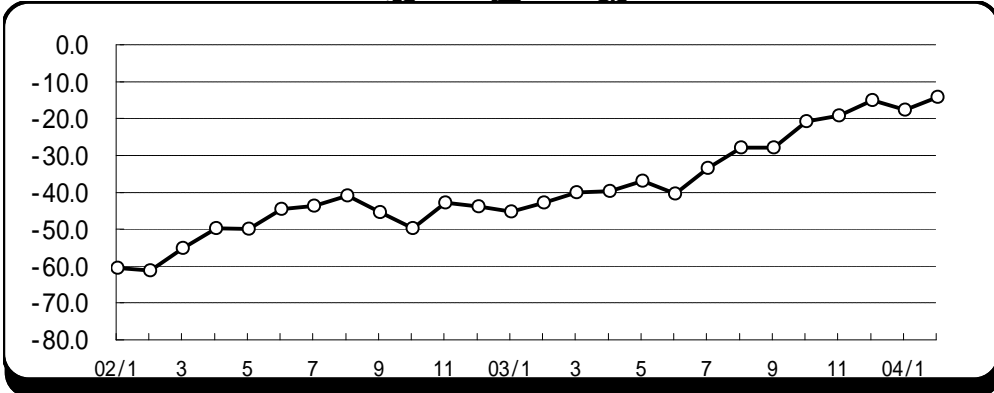
建設業



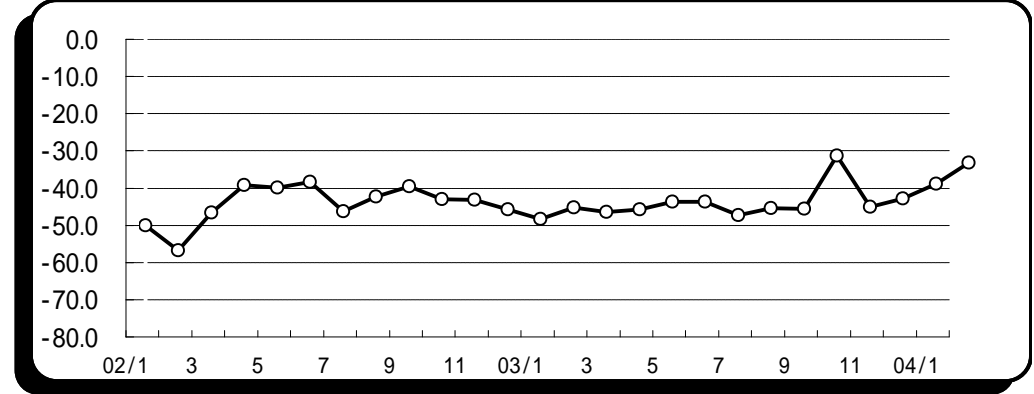
卸売業



製造業



小売業



サービス業

